

Newsletter No.49

一般財団法人 京都国際文化協会 2023

Kyoto International Cultural Association

人口減少社会

松井 雄(当協会理事)

これまで日本の少子化問題については国政をはじめ各所で対策を検討され取り組まれて参りました。つい先頃の岸田首相の施政方針演説においても「子ども・子育て政策」が最重要政策の一つに位置付けられたばかりであります。私が小学生の頃、社会保障の支え手の授業で、1人の高齢者を9人の現役世代で支える絵と将来は3人で支えるという絵が教科書にあり、遠い未来のことと思っていた「3人で支える時代」は2010年頃に訪れ、2022年には「2人で支える」までになりました。日本の近未来を考える時、「このままでは」2040年代まで65歳以上の人口は増え続け、人口に占める割合も2065年には約4割を超え「高齢者1人を1人の現役世代が支える」状況になると言われております。様々な面で社会機能を維持させるためには今後を見据えた対策を講じるとともに、未来を守る備えを充実させなければならないと思います。

《出生数》 最多は1949年の269万人、その後減少し再び1971年には200万人を超え1973年には209万人を記録。徐々に減少し1984年に150万人を、2016年に100万人を下回り内閣府公表の資料では2020年出生数は84万人、推計として報道されているデータでは2022年出生数は77.1万人と初めて80万人を割ると報じられました。

《死亡数》 最多は1918年の149万人でしたが1947年までは概ね100～120万人で推移し、その後1952年の76万人まで減少、しばらくは同程度が続き1990年に80万人、1995年に90万人、2003年に100万人、2007年に110万人、2011年120万人、2016年130万人そして2020年は137万人と年々増加傾向が続いております。今後も2043年まで増加が続くと予測されております。

《人口》 1926年(昭和元年)6000万人であったのが、1948年8000万人、1956年9000万人、1967年1億

人、1974年1億1000万人と急増、2008年1億2808万人が最多で以降は減少に転じ、2020年は1億2614万人でありました。

《将来人口の推移》人口問題研究所発表の「出生低位、死亡中位」の推計では、2028年に1億2000万人(出生70万人 死亡157万人)、2039年1億1000万人(出生64万人 死亡167万人)、2049年1億人(出生54万人 死亡160万人)、2058年9000万人(出生44万人 死亡155万人)を下回る予測となっており、およそ10年毎に1000万人減少すると推計されております。

「このままでは」2050年には、出生は現在の70%の52万人に減り、死亡は現在の115%の160万人に増え、人口は現在の80%の9800万人へと減少します。他国の動態を調べると、現在の日本に近い少子高齢化、人口減少に転じつつあるのが韓国、イタリア、ドイツ、スペインであります。その他にもタイ、中国、カナダ、イギリスが同様の傾向が見られるようです。いずれの国も「このままでは」人口減少になると推計されており、今後の各国の政策が注目されます。

《出生数》すなわち現在では少子化対策をどうするのか。いかにして死亡数を上回る出生数になることができるか。対策を講じたら直ぐに結果が伴う問題ではないですが、社会の仕組みとして、社会全体が「次の世代」をいかに迎え、いかに育むのか。お互いが助け合い、私たちが現在のような恵まれた環境でこれからも生活を営むためには、自分達の次の世代を大切にしなければならないと思います。自分達だけで都合の良いことを享受するだけではなく、また、困った問題ばかりを先送りするのでもなく「子どもや子育て」を最重要視した社会づくりに目を向け、私たちは取り組んでいかなければならないと思います。 (株)公益社 社長

引用、参考文献 *国立社会保障・人口問題研究所
平成29年7月31日付「平成29年推計 日本の将来推計人口」
*UN、World Population Prospects: The 2019 Revision

◆ 国際交流プログラム

国際交流講座 2023 年度『基礎から学ぶ実践日本語教育講座』

23 年度は日本語教育の初級文法とその教え方を学び、実践練習をします。

1 期

1	2023 4/8	日本語教育を考える	日本語教育とは
2	4/22	授業例一般	初級の教科書を活用した授業例
3	5/13	初級の教え方①	名詞、こ・そ・あ・ど①
4	5/27	初級の教え方②	名詞、こ・そ・あ・ど②
5	6/10	初級の教え方③	動詞文①
6	6/24	初級の教え方④	動詞文②
7	7/8	初級の教え方⑤	形容詞文、存在①
8	9/9	初級の教え方⑥	形容詞文、存在②
9	9/30	初級の教え方⑦	～は～が文①
10	10/14	初級の教え方⑧	～は～が文②

講師

岩澤 和宏 (独)国際交流基金関西国際センター
日本語教育専門員

香月 裕介 神戸学院大学グローバル・
コミュニケーション学部 准教授

竹内 智美 (独)国際交流基金関西国際センター
日本語教育専門員

田中 哲哉 (独)国際交流基金関西国際センター
日本語教育専門員



香月先生

2 期

1	10/28	初級の教え方⑨	比較、授受①
2	11/11	初級の教え方⑩	比較、授受②
3	11/25	初級の教え方⑪	て形①
4	12/9	初級の教え方⑫	て形②
5	2023 1/13	初級の教え方⑬	ない形、辞書形①
6	1/27	初級の教え方⑭	ない形、辞書形②
7	2/10	初級の教え方⑮	た形①
8	2/24	初級の教え方⑯	た形②
9	3/9	初級の教え方⑰	名詞修飾①
10	3/23	初級の教え方⑱	名詞修飾②

2022 年度講座を受講して

芝崎 章子

今まで手探りで日本語ボランティアの活動をしてきましたが、一年間系統立てて日本語教育について学ぶ機会を得て、日本語の仕組みや構造などが改めて整理されていく心地よさを感じることができました。ベテランの先生から教わる内容も具体的でわかりやすく、毎回とても貴重な経験でした。ウェブ教材や学習アプリなどの新しい情報も有難かったです。

学習者がどうしたらより良く日本語を習得していけるか、同じ気持ちの仲間と机を並べ良い刺激を受けることができました。そして学べば学ぶほど、日本語教育の奥深さを感じました。参加者同士で考え話し合う時間もとても楽しかったです。

学習者が異国の地で心細いなか、少しずつ学んだ外国語でコミュニケーションができた時の喜びを、同じ経験を持つ私もこれからも共有していきたいと思えます。

日時 2023 年 4 月 8 日～2024 年 3 月 23 日

土曜日 10:00～11:55

会場 京都市国際交流会館 3 階研修室

費用 当協会年会費 5,000 円

教材費 1 期 10,000 円

教材費 2 期 10,000 円

◆日本語ボランティア・レッスン

費用：登録料 1,000 円 レッスン 1 回 90 分 500 円

当協会主催の『基礎から学ぶ実践日本語教育講座』を修了した方がたが、ボランティア・チューターとして活動してくださっています。

学習希望者のレベルや条件をチェックして、合うチューターを紹介しています。最近、学習希望者が増えてきました。オンラインレッスンも続けていますが、対面レッスン希望がほとんどです。できるだけ希望に沿えるよう努めています。

KICA の日本語レッスン

三保俊幸

紹介された学習者は皆、はっきりした目標と強い気持ちを持って来ています。責任を感じながらも、彼らの大切な一場面に立ち会えることを嬉しく思います。そのために私も日々勉強中です。



日本語レッスンについて

アダム・ハント

KICA に9ヶ月間参加しています。その間に沢山日本語をならいました。授業の楽しみは自分の責任で授業の内容を自分で決めることです。私はいつも集中できないけど、その間に普通の話をたくさんする楽しみがあります。岡崎はとてもきれいな町ですから、KICA の勉強は優しく贅沢な感じがあります。みんなフレンドリーです。これは大事なことです。

三保さんは KICA チューター歴 2 年。熱心にレッスンをしてくださっています。三保さんの学習者の一人、アダム・ハントさんは熱心な学習者で、1 回に 2 コマ、180 分を週 2 回受けていらっしゃいます。



アントニーさん



任さん

アントニーさんと任さんはご夫婦。息子さんのクラークさんと共にご一家で、伊藤さんのレッスンを 4 年間受けていらっしゃいます。

KICA の日本語勉強経験

Ren Yen 任

2018 年の夏から kokoka で日本語を学び始めました。今年で 5 年になります。

最初は「やさしい日本語」のクラスに参加しました。五十音から始めるコースを終了後、KICA で伊藤先生と日本語の勉強を続けています。毎週 1 回、夫と息子も伊藤先生に師事しています。先生の教え方はとても丁寧で、難しい日本語の文法を毎回簡単明瞭に解説し、私の日本語の発音を真剣に修正してくださいます。

同時に私の日本語レベルに応じて適切な教材を選択してくださいます。

私が感動したのは、伊藤先生が息子の日本語学習にとっても関心を持ってくださって、どうすれば子供たちの日本語学習への興味を高めることができるか私とよく話し合ってくださいました。

伊藤先生は今も韓国語と英語を勉強中なので、その学びの精神に励まされ、もっと勉強しようと思っています。

尊敬する伊藤先生

アントニー

この機会に、私の日本語を教えてください、不断の忍耐と献身を示してくださいましたことに対して心から感謝の意を表したいと思います。あなたの指導とサポートは、私が京都にいる間とても貴重であり、あなたがしてくださいましたすべてに本当に感謝しています。日本に住んでいるシンガポール人として、言語を学ぶ上で多くの課題に直面しましたが、あなたは常に励ましとサポートを提供してくれました。あなたの教育に対する情熱と複雑な概念を理解しやすくする能力は、私の学習の旅に大きな違いをもたらしました。

再度、あなたがしてくださいましたすべてに感謝します。あなたは素晴らしい先生であり、あなたから学ぶことができたことに感謝しています。 敬具

◆ やさしい日本語

日本語を母語としない方が一日も早く日本の生活に慣れる手助けとなることを目的とした日本語講座です。研修生、実習生、主婦／夫、会社員、学生、旅行者、研究者、経営者など様々な方が受けていますが、同じクラスになったら、助け合い教え合う雰囲気になり、とても良い交流の場にもなっています。

主催：公益財団法人 京都市国際交流協会
日時：毎週金曜日(2期のみ火・金)各期12回
1期 4月～6月
2期 7月～8月
3期 10月～12月
4期 1月～3月
入門：9:30～11:30/18:30～20:30
初級：18:30～20:30(2期は午前のみ)



やさしい日本語入門クラス風景

当協会から講師を派遣しています。

Easy Japanese1
-Newsletter review



Craig Montgomery さん

I first signed up for these classes shortly after arriving in Japan. With almost no Japanese language knowledge, I was not sure what to expect. However, my worries were unnecessary because the class has a very fun and friendly atmosphere. Our teacher, Ito Sensei, creates an engaging and memorable lesson each time (with the help of Arakawa Sensei). During class, there is very little English spoken, which makes for a more immersive experience. Sometimes, to explain things or help us remember things, the class becomes a little silly, thanks to music, videos, props and performances but it is all part of the fun. The small class size really takes away the stress and ensures we all receive a good amount of attention. It is also a great way to meet people from all over the world. I definitely recommend it!

このクラスはたのしいです。

やさしい日本語1

ルル エルベ

『去年の8月に香港から引っこしました。日本語を話すことがじょうずじゃありません。このクラスを見つけられてうれしいです。すこしだけしんぼしています。でも、むずかしいです。べんき ようをしなければなりません。やすみのときは国内旅行をします。あたらしいばしょに行くことがすきです。』

(下はフランス語です)

『Je suis arrivé de Hong Kong en août, l'année dernière. Je ne parle pas bien le japonais. Je suis heureux d'avoir trouvé cette classe. Je fais quelques progrès. Mais cela reste difficile et je dois étudier. Lorsque je suis en vacances, je voyage à l'intérieur du pays. J'aime découvrir de nouveaux endroits. 』

よろしくお願ひします。

Herve' Leleu



やさしい日本語入門クラス風景

◆ 第13回 京都国際文化サロン
カーペンターズ ナイト

出演: Sinon

日時:2022年 11月 26日 18:30~

於:からすま京都ホテル 3階



シノンさんの歌声に魅了されました



Siinon さん



司会 大野理事

コロナ禍のため控えておりましたが、2年ぶりに京都国際文化サロンを開催しました。
出演2回目のSimonさんの歌を楽しみました。
晩秋の宵、カーペンターズの名曲を次々披露してくださいました。

◆ 国際交流プログラム KICA セミナー

日本文化、日本語教育、国際理解・交流等についてのセミナーを年4~6回開催しています。

1 KICA 句会

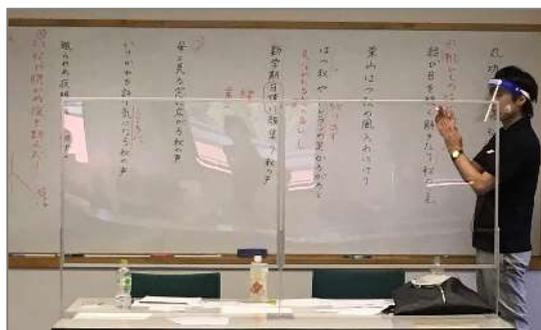
兼題:晩夏、草いきれ、翺雲

席題:新涼、秋風、秋の声

講師:俳句結社「森」 大森健司先生

日時:2022年8月27日(土)14:00~16:00

会場:京都市国際交流会館 3階研修室



波打つて白砂をふるう晩夏かな
往来もスローモーション草いきれ
午後長し京の盆地の晩夏かな
草いきれ南方に死す兵いたり
ちちははの山かろがると翺雲
草いきれボールが黒く光りおり
晩夏光悲運のエース立ちつくす
草いきれ子どもころの我がいる
白粥の白透きとほる秋の声
青絵の具晩夏の草の忘れ物

参加者の作品(一部)

添削 大森先生

俳句セミナーとしてスタートして今回で6回目。俳句の基礎を学んできましたが、今回からはKICA句会。

前もっていただいた季語(兼題)で各自3句提出しました。当日、参加者が全員の句から良いと思う句を選びその理由を述べました。大森先生が、それぞれの句について講評しながら、参加者の評価についても分かりやすく解説してくださったので、よくわかりました。

次に、当日出された季語(席題)で、先生のお話を頭に置いて作句しました。

その後先生が講評してください、更に勉強になりました。



KICA 句会に参加して

田中真奈美

俳句セミナーに参加するにあたり、高校以来となる作句をしました。思いを 17 文字に込める大変さを久しぶりに味わいました。当日は、俳人の大森健司講師から指導を受け、俳句作品の実作と選句力が大切であり、自分の句を俯瞰的に見る目を養うことが大切ということ学びました。参加者の 32 作品から 3 つを選択するのは、とても難しかったですが、よい俳句の条件である映像の復元力を考え、自分の頭に浮かぶ光景を中心に、作者の考えた光景とは違ってしまわないかと心配しながら、選択しました。

参加者の選択理由は、なるほどと思うことばかりであり、私とは違う情景を思い浮かべている人もいて、とても勉強になりました。また、自分の作品が読む人にとっては、自分とは違う情景を思い浮かべることもあるということ認識しました。俳句は誰でもできる日本文化の一つです。その分奥が深いということを実感した実りのあるセミナーでした。これを機会に折に触れ、作句をしたいと思えます。

(学校法人三幸学園東京未来大学教授)

2・3 初級、中上級文法の教え方

講師：高嶋幸太 立教大学日本語教育センター兼任講師

日時：2023年1月22日(日)

初級文法の教え方 10:00~12:00

中上級文法の教え方 14:00~16:00

会場：京都市国際交流会館 別館特別会議室

初級・中上級文法を教える際の文型導入例や文法説明の方法などを紹介してくださいました。その後ワークショップ形式で実際の教育現場でのカスタマイズの方法を話し合い、考えました。久しぶりのワークショップ形式で、参加者同士で教え方や考えを話し合えたという好評でした。



高嶋幸太先生

KICA セミナー 初級文法(中上級文法)の教え方講座に参加して思った事

木下雅之

特に日本人が議論しても難しい表現を学習者が積極的に質問に来ると聞いて驚いた。

例えば「なんて」「なんか」の表現は日本人の私には全く同じ意味でいた。「お酒なんて飲まない」は何故不自然なのですか？と質問されたらどうだろう？

私は迷わず same(おなじ)だと答えてしまっていたに違いない。実はこれは違うのだ。

私は気になった。学習者はいつこのようなハイレベルな疑問を持つのか。授業？日常？

先生による体感では学習者同士の会話でセンスのある学習者が気づき質問する事が多いそうである。今後自分の直感で same(おなじ)と答えるのは避けようと思う。なぜならこのような質問をする学習者は私より日本語センスのある学習者だと思うからである。



久しぶりのグループワークが好評でした。

セミナーに参加して

片山信子

「初級文法の教え方」と「中上級文法の教え方」を受講。各2時間と短時間でどれだけ情報が得られるのか少々懐疑的だったが、受講してよかったと思う。予想通り包括的な内容ではなく、「おき」と「ごと」の違いのような学習者が疑問に思う類似の言葉の使い分けに絞った内容。これまで自身の感覚で説明してきた部分もあったが、より正確にそしてできるだけ多くの例文を用いて具体的に説明する必要性に気付けた。

ワークショップにかなりの時間が割かれた結果、取り上げる題材が少なかったのは少し残念だが、参加型のワークショップも有意義だったと思う。共に例文を作る中で日本人でも個々の言葉に対する感覚に差があることを知り、自身の感覚で教える危険性を実感した。また、他の受講生の例文もとても参考になった。

KICAではチューター個人に授業が任されているが、専門家によるセミナーに加えて先輩のノウハウを知る機会もあればと思う。

4 ケース・メソッド授業で学ぶ 日本語教師の心構えと省察力

講師： 鷹野 恵 筑紫女学園大学文学部准教授
香月 裕介 神戸学院大学准教授
佐々木良造 静岡大学特任准教授

日時： 2023年2月11日(土) 14:00~16:00

会場： 京都市国際交流会館 3階研修室



香月裕介先生

佐々木良造先生

日本語教師として身につけるべき資質・能力、知識、技能、態度のうち講座などでは学べないのは、資質・能力です。日本語教師としての心構えや教育観を身につけるにはどうすればよいか、講義とワークショップを通して考えました。



鷹野恵先生

アンケートから

本当に充実した研修会でした。今までにない「省察」という視点で、新鮮な学びがありました。企画に感謝申し上げます。

先生のお話はスタンダードな対処の仕方だが、自分は個々の現場での問題に対して他の人ならどう対処するか、先生ならどうされるか、というような内容を期待していた。グループワークで、情報共有、ミーティング、ケーススタディをして安心感が生まれた。楽しかった。

5 N3 文法を効率よく学習し、コミュニケーションに生かす授業づくり

講師： 小谷野美穂先生

日時： 2023年3月12日(日) 14:00~16:00

会場： 京都市国際交流会館 別館特別会議室

学習者が負担を感じることなく文法を身につけ、普段のコミュニケーションの中で実際に覚えた文法が使えるようにするにはどうすればよいか、考えました。



小谷野美穂先生

KICA セミナーを受講して

山添寛子

今年も、実施された全てのKICAセミナーに参加して、多くの学びを得ることができた。日本語支援のボランティアを始めて長くなるが、自分が知らないうちに陥っている可能性のある課題を客観的に見直す絶好の機会

となった。研究の成果が凝縮されている著書の内実を著者から直接講義を受けるため、日本語教育の最新の動向を的確に知ることができる。私には生涯学習としても、非日常の場で大学の先生から直接学べる有意義なセミナーになっている。

2023 年度 KICA セミナー予定

1 KICA 俳句 兼題 春全般、おぼろ、ふらここ
講師：大森健司先生
日時：2023 年 4 月 22 日(土) 14:00~16:00
会場：京都市国際交流会館 3 階第 3 会議室

2 ケース・メソッド授業で学ぶ
講師：鴈野 恵 筑紫女学園大学准教授
日時：2023 年 7 月 22 日(土) 14:00~16:00
会場：京都市国際交流会館 3 階研修室

3 ケース・メソッド授業で学ぶ
講師：鴈野 恵 筑紫女学園大学准教授
香月裕介 神戸学院大学准教授
日時：2023 年 9 月 23 日(土) 14:00~16:00
会場：京都市国際交流会館 3 階研修室

4 香を学ぶ
講師：畑正高(株)松栄堂代表取締役社長
日時：2023 年 11 月 18 日(土)10:00~12:00
会場：香老舗 松栄堂 薫習館
お話と聞香体験

2022 年度エッセイコンテスト 「わたしの京都」

公募開始 2022 年 6 月 1 日 応募締切 2022 年 10 月 10 日
口頭発表会 2022 年 12 月 11 日(日) 14:00~17:00 於 京都市国際交流会館 別館特別会議室

2022 年度も昨年に続き、「わたしの京都」というコンセプトでエッセイを募集し、22 編の応募がありました。
予備審査で優秀賞 5 編を選びました。12 月の発表会には、東京、愛知、大阪、京都、熊本から参加してくださいました。司会は、昨年度の優秀賞受賞者、周悦さんでした。



スフトウムル・オソルジャマーさん



村田晃嗣理事長

最優秀賞

スフトウムル・オソルジャマー 「伝統工芸を守る京都」 (モンゴル)

優秀賞

コウ・セイヨイ 「京都、人に優しい町」 (中国)

エミラ・ベンユセフ 「未来の京都」 (チュニジア)

劉 丁仁 「世界に広がれ、もっと素敵な京都」 (韓国)

梁 詩莉 「コーヒーから見る京都と上海」 (中国)

伝統工芸を守る京都

スフトウムル・オソルジャマー

私はモンゴル国立大学の法学部の学生で、ボランティアをしています。去年の夏は「子供教育支援センター」という非政府組織で中学生に日本語を教える経験をしました。その一授業について紹介します。最初の授業で、生徒たちにこれから授業をどのように続けると学校の授業より面白いかについての意見を聞くと「一週間に一回日本文化を知りたい」と言いました。私は彼らの言葉通りに毎週何か日本文化について伝え、学生が言語を学ぶ上での文化理解が促されるような取り組みをしました。

ある日の授業で日本の首都だった、一番伝統文化が多いと言われている京都についてのいくつかのNHKの番組を紹介しました。私が話したのは、京都について一般的な情報¹でしたが、後に生徒たちは私が気づかなかった点について議論しました。これはモンゴルと全く違う状態である京都の伝統工芸のことです。なぜそのように議論になったかというと、京都には伝統工芸品を紹介する京都伝統産業ミュージアムがあり、国が認めている伝統的工芸品が17品目もあるからです。その伝統的工芸品の技術を守るために日本政府は支援をしており、若者向けに様々な活動を行っていることも理由でした。

また、中学生は、モンゴルと違って日本が持っているものに着目しました。それは「伝統工芸作りの体験」です。ビデオで伝統工芸について知らない児童は、より深く知るために伝統工芸づくりの体験を行っていました。京都市立御所南小学校5年生の総合的な学習という時間、「伝統工芸の未来」のテーマで小学生は伝統工芸体験をした後「伝統工芸の魅力を感じた」と言っていました。体験をした上に、児童は職人から伝統工芸が抱える悩みである後継者不足についても知りました。伝統工芸品の大事さを知った児童は、その良さを多くの人に知ってもらうために活動を行いました。それは、市役所と相談し、自分たちで作った伝統工芸を低学年、地域の人や観光客にも美術館で見せて口頭説明をすることでした。

その文化紹介以降、私はモンゴルの伝統工芸品について調べてみて、モンゴルという国には沢山の伝統的工芸品とその独立的な技術があることがわかりました。モンゴルは定住生活に移行してきた国ですが、昔から受け継がれて来た遊牧民の生活が今も存在しています。遊牧

民は家畜を飼いながら、場所を移動して生活をしており家畜の牛、馬、羊、駱駝、山羊の肉を食べ、ミルクを飲み、ミルクで乳製品を作り、皮または羊毛、山羊の柔毛、骨、角などを使って服や工芸品を作っています。

その上、駱駝、牛、馬を移動手段として利用していました。牛皮で馬乳酒を作るときの革袋やできた酒の入れ物、駱駝皮で革紐、馬皮で馬勒、手綱、鞭、鞍に付ける鞆などの馬具、羊毛で伝統的な服であるデール²や座布団、山羊の柔毛でカシミア製品、骨でゲーム、キセルやナイフ、石の嗅ぎタバコ入れ(Snuff bottle)³、角等で色々な道具を自分たちで作っています。家畜の皮で作られた冬の衣類は、暖かくて軽いのでマイナス40度まで寒くなるモンゴルの気候に適します。そして、皮で作られた馬具や道具は壊れにくく、耐久性があります。

しかし、モンゴル政府も市民も伝統工芸に注意を払っていないため、それに関する調査や情報はほとんどありません。そのため、私は、周りの20代の知り合いに調査を行いました。結果は31人の回答者の中で4人しか伝統的工芸品について知りませんでした。この結果は、現状の後継者不足や伝統的工芸品がなくなる危機に瀕していることを示しています。その理由は、伝統的工芸品が遊牧民の生活のみに適合していますが、定住の市民はその価値についてあまり知らないためです。したがって、遊牧民によって発明された工芸品を定住の人々に合うように変えて使うとモンゴル人がその価値を理解すると思います。例えば、羊毛でモダンなデザインのデールを作って、定住者の生活と結び付けて、都市の若者向けに売る、子供の頃から伝統的工芸製作を経験するなどの方がよいのではないのでしょうか。そうしないと、私たちの伝統的なものが一つずつ消えてしまいます。そして、モンゴルという国が他の国と何が違って存在しているかの意義が失われてしまいます。

以上のように日本でも、モンゴルでもそれぞれの特別な伝統工芸品、その技術があり、両方にも後継者不足の問題があることがわかりました。しかし、その問題を解決するようにしている努力、伝統工芸品を維持している方法の違いがあります。その違いは「体験」です。モンゴルでは伝統工芸品製作を引き継ぐということに重点が置かれず、その活動はほとんどありません。そのためにモンゴルの伝統工芸品は輸入品におき代わり、忘れ去られそうな状態です。そのため、モンゴル人は京都のように学

校などで伝統工芸品を作る体験をしてみたらよいと思います。それを通して、希少なのに、遠くなっている遊牧民の生活を理解し、伝統工芸品の価値をわかるでしょう。その結果、自分に合ったモダンなデザインにも変更できる後継者も増えるのではないのでしょうか。京都は伝統工芸品を引き続き保護し、若者に伝わるようになったらよいです。モンゴルは京都を例にしてこれから政府支援し始めて欲しいです。

1 世界遺産(銀閣寺、上賀茂神社など)、「祇園祭」、「天橋立」など

2 デールは、何世紀も前からモンゴル人の中で一般的に着用されていた伝統的な衣服で、綿、絹、羊毛または錦で作られている。特に乗馬用に設計されており、着用者の膝の下の長さで、裾にいくにしたがって扇形になっている。風を遮断する閉じた裾、手の寒さを防ぐ袖口があり、長時間の乗馬をサポートする。乗馬の衝撃から腎臓を守る幅広のベルトを備わっている。遊牧民の老若男女は、今でも一般的に着用している。都市部では、デールは主に高齢者またはお祝いの機会にのみ着用される。

3 嗅ぎタバコ入れはマナ、ジャスパー、チュンチノロフなどの貴石で作られる。蓋はターコイズと珊瑚、スコップは金と銀で作られている。古来、嗅ぎタバコは風邪や感染症の予防に使われていた。今は伝統的に挨拶するために嗅ぎタバコを使っている。



コウ・セイヨイ さん



ユ・ジョンインさん



エミラ ベンユセフさん



リュウ シーリーさん

2022 年度 KICA エッセイコンテスト 講評

審査委員長 小林千春理事

2022 年度も、前年度に引き続いて「私の京都」というテーマでエッセイを募集しました。

応募総数は 22 名、その中から 5 名の優秀賞を選抜し、12 月 11 日に口頭発表会を開催しました。

5 名の優秀賞受賞者についての講評です。

侯正陽さん「京都、人に優しい町」というエッセイは、母国と異なり京都ではハンディキャップを持つ人が社会で活躍しているという視点でつづられていました。我々にとっては日常的話ですが、他国の方からすると一種の発見であるというのは我々にとって新しい視点で、また、テーマ自体難しいところがあるかと思いますが、母国と比較しながらキチンとまとめ上げられた素晴らしいエッセイでした。

エミラ・ベンユセフさん「未来の京都」というエッセイでは、エミラさんはチュニジアご出身で、やはりホームシックを避けることができず、その克服方法として VR(ヴァーチャルリアリティ)の活用について述べられました。VR の活用も含めて DX が声高に叫ばれていますがなかなか進展しないのが実情で、京都も観光業に人が戻ってきていますが、こういった分

野の対策も必要なのではと思われました。口頭発表会では、母国の写真がふんだんに披露され、チュニジアという国が少しだけ身近になりました。

スフトウムル・オソルジャマーさん「伝統工芸を守る京都」というエッセイは、京都と母国モンゴルの伝統工芸に対する取り組み方を比較されるとともに、モンゴルでの伝統工芸の継承のための提案をされていました。今回のテーマの趣旨の一つは、我々が単なる情報ではなく実際の外国を知ることがありますところ、このエッセイでモンゴルの伝統工芸品やその実情を知ることができ、趣旨に合致したエッセイでした。

劉丁仁さんの「世界に広げられ、もっと素敵な京都」というエッセイは、バス停の行先案内や災害時での外国人対応、外国人のための観光地のパンフレット等が足りないという、国際的な観光都市京都に対するストレートな意見をいただきました。我々は、英語表記があれば十分だと考えがちですが、やはり、他国からのツアーリストをもてなすには、まだまだ配慮が足りないことを痛感させられました。

梁詩莉さん「コーヒーから見る京都と上海」というエッセイは、コーヒーを通じて京都と上海の比較をされました。文化なのかファッションなのか、憩いのきっかけなのか消費の対象な

のか等、コーヒーという身近な素材を材料として、京都と上海の市民性の違いを鮮明に比較され、大変興味深いエッセイでした。

さて、優秀賞 5 作品とも、今回のテーマの意図が汲まれており昨年度同様 1 番というものを決め難かったのですが、最優秀賞にはスフウルム・オソルジャマーさんのエッセイを選定いたしました。

全 22 作品を通しての講評としましては、京都は素晴らしい

という視点だけでは印象に残りづらく、京都に対する新たな提言や、京都を通して故郷を見つめなおすといった、「京都」をテーマにひとひねりしていただきたいというねらいがありました。

優秀賞 5 作品は、こういった「ひとひねり」があり、秀でるところがありました。

ご応募誠にありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。



<南禅寺三門五鳳楼>

チャン・ティ・ツック・リン(ベトナム)

五鳳楼から見た景色は息を呑むほど秀丽だった。「絶景かな、絶景かな」という歌舞伎での石川五右衛門の褒め言葉は過言ではないと思った。本物の石川五右衛門が今見ても、きっと同じ言葉を言うだろう。風光明媚という言葉がふさわしいと思う。壮麗な光景に圧倒されると同時に、木々の若葉の色が不安で乱れた心を癒す。想像通りすぎて、感動した。これが夢だったら覚めて欲しくないと思った。もっと賞賛したかったが、語彙力の乏しさに負け、ただただ眺めた。内陣は入れなかったが、狩野探幽の絵や藤堂高虎の像などがチラッと見られた。今度は今治城に行きたいなと思いつつ三門を後にした。



チャン・ティ・ツック・リンさん



南禅寺山門のツック・リンさん

チャン・ティ・ツック・リンさんは、21 年度優秀賞受賞者です。21 年の発表会にはコロナ禍のため入国できず、ベトナムから zoom で参加してくださいました。22 年 4 月入国後、当協会を来訪してくださいました

第 49 回エッセイコンテスト

エッセイ募集 「平和について」

募集期間 2023 年 8 月 1 日～10 月 10 日

応募資格：日本語を母語としない方
字数：1800 字～2200 字

応募：原稿は添付ファイルで
kica@kicainc.jp へ

詳しくは当協会ホームページ

<https://kicainc.jp/>

をご覧ください。

協会役員

名誉顧問	千 玄室			
理事長	村田 晃嗣			
評議員	西村 公雄	藤田 裕之	二股 茂	
	松田 和典	南 恵美子	山内 康敬	
理事	大野 嘉宏	大森 健司	加藤 久雄	
	黒田 益代	児玉 實英	小林 千春	
	高木 路子	畑 正高	廣瀬 和子	
	細井 俊介	松井 雄		
監事	栗津 宣之	長谷川 彰		
顧問	井上 俊丸	尾池 和夫	大倉 治彦	
	金剛 永謹	村田 純一	森田 嘉一	
参与	柴田 重徳	白石 厚子	玉村 文郎	

法人会員

(一財)池坊華道会	オーイーエス(株)		
(株)片岡製作所	(株)関西電業社	京都外国語大学	
ガリオア・フルブライト京滋同窓会		(株)京都銀行	
(株)京都放送	京都信用金庫	京都美術工芸大学	
京セラ(株)	月桂冠(株)	(株)公益社	
(一財)今日庵	サッポロ実業(株)		
サントリーホールディングス(株)			
JP インターナショナル(株)		(株)松栄堂	
(株)淡交社	(株)トーセ	(一財)不審菴	
村田機械(株)	ブルードットレーションズ(株)		
吉忠(株)	(株)ワコール		

協力者

御池総合法律事務所	司法書士法人 絆
二股税理士事務所	

共催・後援団体

京都府	京都市	(公財)京都市国際交流協会
(独)国際交流基金京都支部	NHK 京都放送局	
(株)京都放送	朝日新聞京都総局	京都新聞
讀賣新聞京都総局	京都ライオンズクラブ	
(一財)池坊華道会	(株)松栄堂	(株)凡人社
(株)スリーエーネットワーク		

個人会員

青木 暁子	浅野 睦子	芦澤 久子	網屋 充子
荒川 美穂子	有村 博文	石橋 富美世	伊住 弘美
伊藤 公雄	稲野 真喜子	井上 恵夫	入江 由美
岩井 純子	岩橋 光枝	上野 和美	上羽 淑枝
内田 晴美	大住 倫美	大仲 秀治	大野 恭子
大野 嘉宏	大前 久美子	大森 文子	岡本 成明
織田 佳代子	隠塚 文香	賀 萱	海田 能宏
片山 信子	加藤 剛	加藤 聖子	亀田 憲明

唐牛 裕子	川嶋 直子	絹川 英一	杭迫 柏樹
熊谷 昌美	黒田 益代	呉 秋紅	児玉 和美
児玉 實英	後藤 炯蘇	小林 千春	小原 千夏
金剛 永謹	斎藤 紗智	財間 敬子	阪根 マサ子
澤木 福男	塩崎 弘子	芝崎 章子	柴田 知子
茂原 きえ	白塚 芳郎	鈴木 直子	高木 清子
高木 路子	高橋 綾子	田中 寿明	谷口 剛一
田村 礼子	短田 純子	辻 加代子	内藤 純子
内藤 園子	中井 智恵	中島 みち代	中谷 文乃
長野 登和子	西澤 未亜	西村 公雄	河 英伊
白子 友侑子	長谷川 彰	畑 正高	早川 嘉美
平野 裕美	廣瀬 和子	福本 和代	藤井 幸広
藤田 裕之	二股 茂	二村 慈昭	別所 峻
細井 俊介	前田 絹子	松井 雄	松嶋 洋子
松田 和典	松村 治	松村 順子	松村 知子
水野 あづさ	水野 幸子	水野 美子	南 恵美子
三保 俊幸	三宅 雅彦	村上 俊延	村田 晃嗣
山内 眞里	山崎 響子	山添 寛子	山田 順子
山中 智子	吉岡 繭美	吉村 紀雄	吉本 有里
蓮佛 明子			

スタッフ

荒川 美穂子	入江 由美	高木 路子	河 英伊
廣瀬 和子	藤井 幸広		

KICA だより

いつも当協会の活動にご理解、ご支援いただきまして誠にありがとうございます。

2022年度は3年ぶりに「京都国際文化サロン」を開催し、多くの皆さまにご参加いただきました。

エッセイコンテスト発表会も通常の状態で開催し、発表会には5都府県から来ていただきました。

人流も次第にコロナ前の状態に戻りつつあり、日本語レッスン希望者が増え、交流が盛んになってきました。

2023年度も変わらずご支援を賜りますようお願い申し上げます。

一般財団法人 京都国際文化協会
Kyoto International Cultural Association (KICA)

606-8436
京都市左京区粟田口鳥居町 2-1
京都市国際交流会館 3階

Tel) 075-751-8958 Fax) 075-751-9006

Mail) kica@kicainc.jp

URL) <https://kicainc.jp/>